

資料2

有明の丘研修

1. 防災基礎コースのリニューアル
2. 災害対策コースのリニューアル
3. テスト作成の進め方

コース内容の見直し

● 令和6年度企画検討会での議論

- ・ 第1回:受講時間の負担軽減

⇒受講者・現場ニーズなども踏まえ体系的な内容整理の必要性が指摘

- ・ 第2回:アンケートによる受講者ニーズの把握方法

⇒新たな調査は実施せず、既存のアンケートデータ等から受講者ニーズの分析の可能性を指摘

- ・ 第4回:アンケート結果及び単元数・時間・内容などの現状と変遷を提示

⇒対象者(主は市町村職員向け)を踏まえた内容の整理と、それに併せたコースのコンパクト化が指摘



● リニューアルにおける主な論点

① どのような内容を教えるべきか？【教える内容】

② コンパクトに学べるようにするにはどうするとよいか？【コンパクト化】

「教える内容」や「コンパクト化」に関するこれまでの意見

R7.3.10
第5回「防災スペシャリスト養成」
企画検討会資料

種別	主な意見	回
教える内容	防災に係る法律 やガイドラインが改訂された際に、変更点等を解説するコンテンツを作成してはどうか。	R4 第3回
	これまでの受講者や災害対応経験者に意見を聞いてモデルプランを整理してはどうか。	第1回
	提供者側(内閣府)の目的や思いを体系化して整理してはどうか。	第1回
	防災基礎のリニューアルで増加している講義内容が、 市町村向けの内容となっているか確認 、検討する必要があるのではないか。	第4回
	防災基礎としての学びの基本に、地域防災計画があるのではないか。	第4回
コンパクト化	ハザード や 災害関連法 は各コースでも重複する部分がある。ユーザー側の立場としてこれらは一緒に整理されていたほうが良いのではないか。	R4 第3回
	防災基礎コースにも、 上級管理者向けの概論 があると良いのではないか。	R4 第5回
	必修の範囲は受講者の所属部局や職位によって柔軟に選択できるようにしてはどうか。	第1回
	各単元の内容を10分程度にまとめたものを必修とし詳細は選択制 で学ぶようにしてはどうか。	第1回
	ハザード の基本(種別・特徴等)を必修で学び、個々のハザードの詳細は選択制にしてはどうか	第4回
	「本当に知ってほしい基礎内容」を絞り込み、それ以外を選択単元としてはどうか。	第4回
	防災基礎コースに限って扱っている単元は必修とし 防災基礎以外のコースと内容が重複している単元は、他コースへの導入のための単元として整理 してはどうか。	第4回



これまでの議論で、「法律」、「ハザード」、「防災基礎コース以外の内容」のコンパクト化について指摘
⇒ **防災基礎コースの当初の設計**(参考資料1参照)を踏まえて、これらの指摘事項の見直しを検討

「26の防災活動」と現行コースの整理

R7.3.10
第5回「防災スペシャリスト養成」
企画検討会資料

- 防災基礎で取り扱う範囲・内容を整理するため、まずは「26の防災活動」と各コースの対応状況を整理した。

26の防災活動

	予 防	応 急	復旧・復興
総合調整	1	計 画 立 案	
	2	広 報	
	3	活 動 調 整	
	4	実 行 管 理	
個別課題への対応	5	災害に強い国づくり、まちづくり	11 災害発生直前の対策
	6	事故災害の予防	12 発災直後の情報の収集・連絡及び活動体制の確立
	7	国民の防災活動の促進	13 災害の拡大・二次災害の防止及び応急復旧活動
	8	災害及び防災に関する研究及び観測等の推進	14 救助・救急、医療及び消火活動
	9	事故災害における再発防止対策の実施	15 緊急輸送のための交通の確保・緊急輸送活動
	10	迅速かつ円滑な災害応急対策、災害復旧・復興への備え	16 避難収容及び情報提供活動
			17 物資の調達、供給活動
			18 保健衛生、防疫、遺体の処理等に関する活動
			19 社会秩序の維持、物価の安定等に関する活動
			20 応急の教育に関する活動
			21 自発的支援の受入れ
			22 地域の復旧・復興の基本方向の決定
			23 迅速な原状復旧の進め方
			24 計画的復興の進め方
			25 被災者等の生活再建等の支援
			26 被災中小企業の復興その他経済復興の支援

26の防災活動(現行コースの対応)

	予 防	応 急	復旧・復興
総合調整	1	対策立案	
	2	指揮統制	
	3	総合監理	
	4	人材育成	
個別課題への対応	5	災害に強い国づくり、まちづくり 国土省	11 警報避難
	6	災害への備え	12 総合監理
	7	国民の防災活動の促進 人材育成	13 対策立案
	8	災害及び防災に関する研究及び観測等の推進 文科省・気象庁	14 消防庁
	9	事故災害における再発防止対策の実施 災害への備え	15 応急活動・資源管理
	10	迅速かつ円滑な災害応急対策、災害復旧・復興への備え	16 被災者支援
			17 応急活動・資源管理
			18 被災者支援
			19 警察庁・経産省
			20 文科省
			21 応急活動・資源管理
			22 地域の復旧・復興の基本方向の決定
			23 迅速な原状復旧の進め方
			24 計画的復興の進め方
			25 被災者等の生活再建等の支援
			26 被災中小企業の復興その他経済復興の支援

- ・ 赤字:「地方都市等における地震対応のガイドライン(平成25年8月)内閣府(防災担当)」の地震対応の対策項目に該当する項目(一部該当も含む)
- ・ 1~4は、予防、応急、復旧・復興に共通する最重要活動として設定
- ・ 1~3:National Preparedness Goal を参考に設定、4:PDCAサイクルの評価・改善の重要性から1~3に追加して設定
- ・ 5~26:「防災基本計画」第二編「各災害に共通する対策編」の各項目から設定
- ・ ■:内閣府が対象とする活動

+

防災基礎

(防災活動全体の基礎知識、法律・計画・ハザード・災害事例)

「26の防災活動」と防災基礎コースの学習項目との対応

R7.3.10
第5回「防災スペシャリスト養成」
企画検討会資料

- 「26の防災活動」と現行コースとの対応を踏まえ、防災基礎の学習項目である、①防災活動の全体知識、②法律・③計画・④ハザード・⑤災害事例、⑥防災活動の概要の対応を整理した。

26の防災活動(現行コースの対応)

防災基礎 (防災活動全体の基礎知識、法律・計画・ハザード・災害事例)			
+			
	予 防	応 急	復旧・復興
総合調整	1	①対策立案	
	2	指揮統制	
	3	②総合監理	
	4	③人材育成	
個別課題への対応	5 国交省	11 ④警報避難	22 地域の復旧・復興の 基本方向の決定
	6 災害への備え	12 ⑤総合監理	23 復旧・復興
	7 ⑥人材育成	13 ⑦対策立案	24 計画的復興の 進め方
	8 文科省・気象庁	14 消防庁	25 被災者支援
	9 災害への備え	15 ⑧応急活動・資源管理	26 復旧・復興
	10	16 被災者支援	
		17 ⑨応急活動・資源管理	
		18 被災者支援	
		19 警察庁・経産省	
		20 文科省	
		21 ⑩応急活動・資源管理	

防災基礎コースの学習項目対応

- ①防災活動全体の基礎知識
- ②法律・③計画・④ハザード・⑤災害事例

- ⑦総合調整の概要
(組織運営コースの概要)

※「上級管理」向けの内容なので防災基礎では取り扱わない

- ⑥防災活動の概要
(災害対策コースの概要)

現行コースと学習項目の紐づけ・並び替え

R7.3.10
第5回「防災スペシャリスト養成」
企画検討会資料

- 現行のコースに学習項目を紐づけ・並び替えて、見直しの対象と各学習項目ごとの時間を整理した。

現行コースと学習項目の紐づけ

	単元名	時間 (分)	選択/ 必修	学習項目
1	概論	66分	必修	①防災活動全体の基礎知識
2	風水害	67分	必修	④ハザード
3	地域の脆弱性と被害の実態	84分	必修	④ハザード
4	災害法体系・防災計画・ 災害への備え	96分	必修	①防災活動全体の基礎知識 ②法律(基本法、法体系) ③計画 ⑥コース概要(災害への備え)
5	災害から命を守る	64分	必修	⑥コース概要(警報避難)
6	被災者の応急救助	63分	必修	②法律(災害救助法) ⑥コース概要(応急・資源) ⑥コース概要(被災者支援)
7	災害から暮らしを守る	63分	必修	⑥コース概要(応急・資源) ⑥コース概要(被災者支援)
8	災害時の応援・受援体制	30分	必修	⑥コース概要(応急・資源)
9	災害から回復する	62分	必修	⑥コース概要(被災者支援) ⑥コース概要(復旧・復興)
10	多様な視点からの災害対応	26分	必修	⑥コース概要(被災者支援)
11	地震・津波災害のハザード	66分	選択	④ハザード
12	火山災害のハザード	80分	選択	④ハザード
13	大規模地震対策① 首都直下地震の対策	36分	選択	④ハザード (大規模地震対策)
14	大規模地震対策② 南海トラフ地震の対策	31分	選択	
15	大規模地震対策③ 日本海溝・千島海溝周辺 海溝型地震の対策	31分	選択	
16	大規模地震対策④ 東日本大震災の教訓	16分	選択	

並び
替え

学習項目で並べた防災基礎

	学習項目	主な内容	時間 (分)	選択/ 必修
①防災活動全体の 基礎知識	①防災活動全体の基礎知識	・概論(コース全体像/災害と防災/我が国の自然災害特性/災害事例) ・防災行政概要	66分	必修
②法律	②法律	・災害法体系 ・災害対策基本法 ・災害救助法	29分	必修
③計画	③計画	・防災計画 ・受援体制・受援計画	31分	必修
④ハザード	④ハザード	・風水害 ・脆弱性と被害 ・地震・津波災害 ・火山災害	67分 84分 66分 80分	必修 必修 選択 選択
	④ハザード (大規模地震対策)	・首都直下地震 ・南海トラフ地震 ・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震 ・東日本大震災における復興	114分	選択
	⑥コース概要(災害への備え)	・地区防災計画	16分	必修
	⑥コース概要(警報避難)	・避難情報ガイドライン ・防災気象情報	64分	必修
⑥ 防災活動 の概要 (災害対策の 概要)	⑥コース概要(応急・資源)	・救援物資の調達・輸送 ・災害廃棄物処理 ・応急対策職員派遣制度	54分	必修
	⑥コース概要(被災者支援)	・避難行動要支援者の避難支援 ・保健・医療・福祉活動 ・避難所の開設・運営 ・被害認定調査・罹災証明書 ・被災者生活再建支援制度 ・多様な主体による避難所運営 ・男女共同参画 ・災害ケースマネジメント ・災害弔慰金・災害援護資金 ・救助・捜索活動	139分	必修
	⑥コース概要(復旧・復興)	・仮設住宅の供与 ・復旧・復興 ・インフラ復旧	53分	必修
	その他 (市町村対象外業務)	・国の初動対応 ・内閣府における防災人材育成	14分	必修

必修：621分
選択：260分

※⑤災害事例は、①、④、⑥の中で取り扱い

必修：621分
選択：260分

防災基礎コースの見直し素案

R7.3.10
第5回「防災スペシャリスト養成」
企画検討会資料

学習項目で並べた防災基礎

学習項目	主な内容	時間 (分)	選択/ 必修
①防災活動全体の基礎知識	・ 概論	66分	必修
	・ 防災行政概要	19分	必修
②法律	・ 災害法体系 ・ 災害対策基本法 ・ 災害救助法	29分	必修
③計画	・ 防災計画 ・ 受援体制・受援計画	31分	必修
④ハザード	・ 風水害 ・ 脆弱性と被害	67分	必修
	・ 地震・津波災害	84分	必修
	・ 地震・津波災害	66分	選択
	・ 火山災害	80分	選択
④ハザード (大規模地震対策)	・ 首都直下地震 ・ 南海トラフ地震 ・ 日本海溝・千島海溝同列海溝型地震 ・ 東日本大震災における復興	114分	選択
⑥コース概要(災害への備え)	・ 地区防災計画	16分	必修
⑥コース概要(警報避難)	・ 避難情報ガイドライン ・ 防災気象情報	64分	必修
⑥コース概要(応急・資源)	・ 救援物資の調達・輸送 ・ 災害廃棄物処理 ・ 応急対策職員派遣制度	54分	必修
⑥コース概要(被災者支援)	・ 避難行動要支援者の避難支援 ・ 保健・医療・福祉活動 ・ 避難所の開設・運営 ・ 被害認定調査・罹災証明書 ・ 被災者生活再建支援制度 ・ 多用な主体による避難所運営 ・ 男女共同参画 ・ 災害ケースマネジメント ・ 災害弔慰金・災害援護資金 ・ 救助・捜索活動	139分	必修
⑥コース概要(復旧・復興)	・ 仮設住宅の供与 ・ 復旧・復興 ・ インフラ復旧	53分	必修
その他 (市町村対象外業務)	・ 国の初動対応 ・ 内閣府における防災人材育成	14分	必修

見直し素案

学習項目	主な内容	時間 (分)	選択/ 必修
①防災活動全体の基礎知識	・ 概論(コース全体像/災害と防災/我が国の自然災害特性/災害事例) ・ 防災行政概要	66分	必修
②法律	・ 災害対策基本法 ・ 災害救助法 ・ 生活再建支援法 ・ 災害法体系	15分	必修
③計画	・ 防災計画 ・ 受援体制・受援計画	15分	必修
④ハザード	・ 気象災害 ・ 地殻災害(地震・火山) ・ 風水害 ・ 脆弱性と被害 ・ 地震・津波災害 ・ 火山災害 ・ 大規模地震対策 ・ 大規模地震対策(詳細)	15分	必修
		15分	必修
⑥コース概要(災害への備え)	・ コース概要(災害への備え) ・ コース概要(R6の内容)	15分	必修
⑥コース概要(警報避難)	・ コース概要(警報避難) ・ コース概要(R6の内容)	16分	選択
⑥コース概要(応急・資源)	・ コース概要(応急活動・資源管理) ・ コース概要(R6の内容)	15分	必修
⑥コース概要(被災者支援)	・ コース概要(被災者支援) ・ コース概要(R6の内容)	54分	選択
⑥コース概要(復旧・復興)	・ コース概要(復旧・復興) ・ コース概要(R6の内容)	15分	必修
⑥コース概要(復旧・復興)	・ コース概要(復旧・復興) ・ コース概要(R6の内容)	139分	選択
⑥コース概要(復旧・復興)	・ コース概要(復旧・復興) ・ コース概要(R6の内容)	53分	選択
その他(市町村対象外業務)	・ 国の初動対応 ・ 内閣府における防災人材育成	14分	選択

15分×2
=30分

15分×3
=45分

15分×5
=75分

↓詳細は各コースで学習

必修：621分
選択：260分

必修：280分 (-341分)
選択：751分

● 令和6年度の取組み

- ・ 第1～4回にかけて防災基礎の受講負担軽減と学習内容の再整理について議論
- ・ 第5回に防災基礎の見直し素案を提示



● 令和7年度以降の取組み(案)

進め方：第5回提示の考え方・見直し素案と委員の意見を踏まえてリニューアルを検討

成 果：リニューアルしたプログラム(単元・学習内容・時間設定等)、講義スライド・動画などを整備

体 制：防災基礎リニューアルワーキンググループ(年3回、委員4名)(想定)を設置

目 標：令和8年度以降のリニューアル反映を目指す

● ワーキンググループでの主な検討事項(案)

作業等	・「法律」、「ハザード」に関する既存講義の内容整理	
第1回(5月)	・「法律」、「ハザード」の内容検討	➡ 検討会(第1回)報告
作業等	・「法律」、「ハザード」の講義スライド作成 ・「各コース概要」に関する既存講義の内容整理	
第2回(8月)	・「コース概要」の内容検討 ・「法律」、「ハザード」の内容確認・改善	➡ 検討会(第2回)報告
作業等	・「各コース概要」の講義スライド作成	
第3回(10月)	・作成した講義スライドの確認・改善	➡ 検討会(第3回)報告
作業等	・最終的な講義スライドの修正、講義動画撮影	

2. 災害対策コースのリニューアル

今年度の取組み内容

● 令和6年度のリニューアルの取組み

- ・ワーキンググループを新たに設置し、リニューアルを検討・実施した。

<主な検討・実施事項>

- 「実務担当」と「一般管理」向けの職位に応じた座学と演習の提供を目指す。
- コースリニューアルワーキンググループを設置して検討を進める。
- WGや試行を通じて手順を確立しながらリニューアルを実施する。

● リニューアルWG(第1回) (6/28, 7/2)

- ・以下の3点について、各コースで見直しを進めていく方針を確認
 - 1)15分1区切りの単元構成
 - 2)職位別研修単元の創設
 - 3)職位別対面演習の実現

● リニューアルWG(第2回) (1/8)

- ・第1回で確認した方針に基づき、各コースでリニューアルを実施。
- ・各コースのコーディネーターから取組み状況を報告。
- ・リニューアルに関する課題事項などについて意見交換。

「災害対策」コース リニューアルWG(第2回)の協議状況

R7.3.10
第5回「防災スペシャリスト養成」
企画検討会資料

コース	単元	取組み状況・ご意見	
② 災害への 備え 丸谷CD	「災害への備え」としての地域の防災計画／防災教育・災害教訓の伝承／企業防災／行政のBCP、BCM／住民啓発／地域の自主的な防災活動／災害ボランティア	15分区切	・コーディネーター担当の部分を中心に見直した ・早い段階で講師にお声掛けすればその他の単元でも対応が可能
		職位別 (実務・一般)	・民間企業等の講義などは、コーディネーターが15分程度で職位別の内容を講義して対応
		対面演習	・一般管理の演習において所属機関別にグループを設定したがテーマが明確ではなかった。第2期では所属機関を混在させ、機関横断で議論できるように見直す。
③ 警報避難 井ノ口CD	警報等の種類と内容／避難情報の発令判断・伝達等／土砂災害・風水害における警報と避難／南海トラフ地震臨時情報／個別避難行動の支援と計画／決心ポイント	15分区切	・15分区切りが崩れていた部分の立て直しも含め、全体的に再構成 ・15分区切りに慣れない講師もいるためコーディネーターによる資料のブラッシュアップが必要
		職位別 (実務・一般)	・土砂災害、風水害の単元に職位別の内容を追加
		対面演習	・2会場同時並行実施は多くのスタッフが必要となることが課題 ・実りある演習とするため最適な人数についても考えたい
④ 応急活動・資源 管理 宇田川CD	初動対応における国との連携／地方公共団体間の相互応援と受援体制／災害廃棄物処理／救援物資の調達／救援物資の輸配送／活動拠点・環境の確保／救援物資ロジスティクス演習	15分区切	・コーディネーターの担当単元を中心に再構成 ・民間企業の講義等は大きく変えることが難しい。災害への備えコースのように基本的な内容はコーディネーターが講義することを検討
		職位別 (実務・一般)	・「災害廃棄物処理」「救援物資の調達／輸配送」「活動拠点・環境の確保（水道）」について、今後、見直し
		対面演習	・2会場同時並行実施は多くのスタッフが必要となることが課題 ・演習のグループ設定で異なる所属機関の人を混在させるなどの工夫を実施
⑤ 被災者 支援 田村CD	災害救助法と被災者生活再建支援法／避難所のライフサイクル／避難所運営の実践／医療による被災者支援／多様な主体による被災者支援／被災者支援の個別課題／生活再建支援業務／個別避難計画の作成	15分区切	・現時点である程度対応できている ・まず講師に講義いただいて内容を把握した上でコーディネーターが15分区切りに整理するというやり方を過去に実践
		職位別 (実務・一般)	・「避難所」「個別避難計画」「生活再建支援業務」について今後見直し。 ・災害対応eラーニングの関係性も整理したい。
		対面演習	・既に職位別の対面演習を実施
⑥ 復旧・復興 加藤CD	公共基盤の復旧／仮設住宅／コミュニティ再生／市街地の復興まちづくり／住まいの再建／地域産業の復興と雇用確保	15分区切	・来年度以降に抜本的な見直しを予定。講師選定から検討したい。 ・復旧・復興コースで職位別に分けることが可能か、他のコースの取組みや意見なども踏まえて検討する
		職位別 (実務・一般)	
		対面演習	

● 令和6年度の取組み

- WGで「1)15分1区切りの単元構成」「2)職位別研修単元の創設」「3)職位別対面演習の実現」について検討し、一定のリニューアルが反映できた
- 本年度の取組みを踏まえた課題事項などが共有

● 令和7年度以降の取組み(案)

進め方：本年度の検討を踏まえ、引き続きさらなるリニューアルを検討

成 果：リニューアルしたプログラム(単元・学習内容・時間設定等)、学習教材などを整備

対 象：被災者支援コース、復旧・復興コースを中心に、その他コースも引き続きリニューアル

体 制：令和6年度に引き続き、リニューアルワーキンググループ(年3回)を設置

目 標：令和7年度内のリニューアル反映を目指す

● ワーキンググループでの主な検討事項(案)

第1回(4-5月) 各コース個別協議	• リニューアル内容(対象単元、学習内容など)の検討 • 講師の選定	➡ 検討会(第1回) 報告
作業等	• 原案となる講義の録画、講義内容の原稿起こし • コーディネーターによる講義スライド、原稿の再構成 • 講義の再録	
第2回(8-9月) 全体協議	• 各コースのリニューアル状況・課題の共有 • 第2期に向けた見直し・改善	➡ 検討会(第2回) 報告
作業等	• 有明の丘研修(第2期)での試行	
第3回(12-1月) 全体協議	• 各コースの試行状況・課題の共有方向性 • 第3期に向けた見直し・改善	➡ 検討会(第4回) 報告

3. テスト作成の進め方

● 令和6年度の取組み

- ・「多肢選択形式テスト」の導入を視野に作成手順や難易度などを検討。
- ・○×形式を作成⇒多肢選択形式に変換する手順が確立。警報避難コースでテストを作成

● 令和7年度以降の取組み(案)

進め方：本年度の検討した手順を踏まえ、リニューアルした単元を対象にテストを整備
同時に、テスト作成の方法・手順、体制、スケジュール等をまとめたマニュアルを検討

成 果：リニューアルした単元の新テスト問題 及び テスト作成マニュアル

対 象：R7にリニューアルする被災者支援コース、復旧・復興コース 及び
R6に一定のリニューアルを反映した災害の備えコース、警報避難コース

体 制：令和6年度に引き続き、テストワーキンググループ(年3回)を設置

目 標：リニューアルした単元のテスト作成完了を目指す

● ワーキンググループでの主な検討事項(案)

第1回～第3回 (不定期)	・災害対策コースでリニューアルした部分からテストを作成	 検討会で 適宜報告
作業等	・○×問題の作成(コーディネーターと協働) ・○×問題の多肢選択問題化	